

令和6年度 学力調査等の分析

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題
<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は60%であり、全国より2%上回り、都より1%低かった。 情報の読み取りは都平均より5%高かった。一方で短歌表現技法に関する正答率は都平均よりも約10%低かった。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関数の領域では、都平均より2.3%低かった。一方で、データの活用については、5.1%高かった。 都平均と比較して、ほぼすべての問題で、無回答率が高かった。 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報や資料を読み取って、自分の考えを明示すること。 短歌に関する基本的な知識を習得し、読み味わうこと。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフの傾きや交点の意味を、事象に即して解釈すること。 問題解決の方法を数学的に説明することができること。 問題に対して、粘り強く思考し、取り組むこと。

(2) 東京都児童・生徒体力・運動能力調査の結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題
<p>(令和5年度の調査結果より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 男子は全学年、握力、反復横跳び、女子は全学年、握力が都平均を上回っている。 男女ともに全学年、上体起こしで1.5回～3.7回、持久走で3～20秒、都平均を下回っている。(両種目とも、学年が上がるにつれ、都との開きが大きくなる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 筋持久力を高めること。 全身持久力を高めること。

(3) 東京ベーシック・ドリルの結果から、生徒の実態と課題

生徒の実態	課題
<p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計算問題の正答率は平均して65%程度であった。 比例や反比例に関する問題の正答率は9.7%であった。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を用いて数量を表す問題の正答率が21.5%であった。 資料の整理に関する問題の正答率が8.7%であった。 	<p>(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 四則演算について、基本となる計算法則を正しく理解し、反復して演習すること。 問題文から正しく立式したうえで、比例関係か反比例の関係にあるかを判断すること。 <p>(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な数値を用いて立式したり、文字の意味を確認したりする経験の中で、豊かな数量感覚を養うこと。 色々な種類の代表値の意味を正しく理解するとともに、日常にある現象について、それらを用いて整理、分析をすること。

(4) 定期考査、授業アンケートの結果から、生徒の実態と課題

	生徒の実態	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、選択問題に比べて記述問題の無回答率が大幅に高かった。 授業アンケートではどの学年も概ね授業に集中して取り組んでいるが、一部の生徒に目的や取組が不十分と回答した生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く解答しようと努力すること。 自分の考えを適切に表現する力を身に付けること。 書き方などの例を見て、自分の考えをまとめることを習慣付けていくこと。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、80%以上の生徒が、「授業に対して意欲的に取り組んでいる」と回答している。 定期考査では、思考・判断・表現を問う問題の正答率が十分ではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲が授業内での課題への取組や定期考査の結果に表れるようにすること。 自分やグループの考えをまとめ、記述・発表でできること。

数学	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、知識・技能を問う問題の達成率は70%程度であったが、思考・判断・表現を問う問題の達成率は50%程度であった。 授業アンケートでは、80%以上の生徒が「解き方や考え方、やり方を理解している」と答えている。しかし、単元テストや定期考査等での習熟度は60%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で扱った問題だけでなく、未知の問題に対して、粘り強く思考すること。 家庭学習などで、反復演習やテストの直し直しを行い、自身の定着度を確かめ、自らの学習を調整すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、知識・技能を問う問題の達成率は、1年生は55%、2年生は70%、3年生は50%である。一方で、思考・判断・表現を問う問題の達成率は、3学年とも40~50%程度に留まっている。 授業アンケートでは、80%以上の生徒が「意欲的に授業に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したドリルを用いて、基礎・基本的な知識を身に付けること。 副教材や演習問題を通して、思考・判断・表現力を養うこと。 学習内容と日常生活の自然現象やニュースや新聞の記事などを関連付ける習慣を付けること。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、音楽的な知識を問う問題の正答率が低い傾向があった。 授業アンケートでは、80%以上の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な知識や作業について、よく理解して取り組み、定着させていくこと。 表現活動において、自己の課題を見付け、解決に向けて努力をすること。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、知識・技能を問う問題の達成率が1年生は65%、2年生は約50%、3年生は70%程度であった。 作品制作の際、発想に時間がかかり、提出期限までに作品を完成させることが難しい生徒がいた。 授業アンケートでは90%以上の生徒が「意欲的に授業に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能について、内容をよく理解し粘り強く取り組むこと。 発想をスムーズに行うこと。 作品を計画的に制作すること。
保体	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートでは、80%以上の生徒が「意欲的に授業に取り組むことができている」と回答している。 定期考査では、思考・判断・表現を問う問題は正答率が低くなる傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動に取り組むこと。 仲間と考えを共有しながら、よりポイントをpushさせて、思考すること。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果から、知識・技能の達成率は1年生から順に62%、67%、73%であった。思考・判断・表現を問う問題は、1年生から順に、34%、79%、57%であった。思考・判断・表現を問う問題は空欄が多く、正答率が低かった。 授業アンケートでは、90%以上の生徒が「意欲的に取り組むことができている」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を活用しながら、自分で考えて作業工程を考えること。 学習した知識と、行っている作業の関連性をより深く理解すること。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの達成率は、1年から順に50%、62%、70%程度であった。このうち、思考・判断を問う問題は、1年から順に55%、47%、70%であった。 授業アンケートでは、「意欲的に取り組むことができますか」の問いに、3年生は90%以上の生徒が肯定的に回答しているが、1・2年生は70%程度に留まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習して習得した知識が、実生活に繋がるよう、関連付けて思考すること。 理解したことを整理して、新たに質問や意見として表現すること。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では、全学年の「知識・技能」の平均達成率は61%、「思考・判断・表現」の平均達成率は66%であった。全学年とも、読解問題の正答率が高かった。英語を書く問題では、積極的に解答する生徒が多い反面、文法やスペリング等で減点になる傾向があった。 授業アンケートでは、90%以上の生徒が「意欲的に授業に取り組んでいる」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法や語順を正しく理解するとともに、スペリングを身に付け、表現すること。 既習事項をもとに、多様な表現を用いて自分の意見を相手に伝えること。